

6. めざすべき姿と、3年間で取り組む事項



【医療・福祉】本人を真ん中においた切れ目のないサービスの実現



2030
年の滋賀

医療や福祉サービスに関する情報が必要に応じて迅速に関係機関で共有され、一人ひとりの状況に応じた適切な治療やケアを切れ目なく享受することが出来る情報環境や医療連携の整備が進み、医療の質の確保や信頼性の向上、福祉の増進が図られ、健康が守られていることが実感できている

2024
年度末
までの
取組

- **【医療・福祉の情報共有】** ICTを活用して、カルテ情報や在宅療養にかかる情報等を共有し、病院や診療所、薬局、在宅療養を支援する機関等の連携を一層推進することで、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな医療・介護サービスの提供につなげる。
 - **【介護現場等の環境改善】** 介護や保育の現場の業務効率化を図り、従事者の負担軽減による雇用環境の改善、離職防止および定着促進を図る。
 - **【SNSでの相談・支援】** SNSを活用した利用しやすい相談事業を実施できるよう、心の悩みなどを抱える人を支援する一体的な体制を整える。
 - **【データ利活用による健康増進】** 市町保健事業における国保データベースシステムの「健診」「医療」「介護」等の情報の効果的な活用により、「健康寿命の延伸」および「医療費の適正化」を進める。
 - **【デジタル活用による健康増進】** スマートフォンアプリを活用して、ウォーキングや健診受診などの健康づくりに、楽しみながら取り組むきっかけを提供し、県民の健康増進につなげる。
- 医療情報等をデジタル化して関係機関で共有するネットワークづくりの展開
 - 介護現場の業務効率化や負担軽減のためのICT化、介護ロボットの導入支援
 - SNSを活用した自殺予防、子育て、児童虐待、心の悩み等に関する相談対応

県の主な
取組

本人を真ん中においた切れ目のないサービスの実現

これからの医療の課題

超高齢社会の到来による
疾病の量的増加と質的变化

限られた医療資源と医療財政の逼迫

人々が望む、住み慣れた場所での
療養・看取りの実現

目指す姿

<患者・住民のQOL（生活の質）向上>

- ICTの活用による医療情報連携の推進により、患者・住民が安心して適切なサービスを受けられている
- 県民が自らの健康・医療情報についてICTを活用して把握することで、健康づくりに主体的に関わっている

滋賀県保健医療計画（平成30年(2018年)3月改訂）より

DXの推進で目指す 滋賀の医療・介護サービスの提供イメージ

①地域連携

地域の病院-診療所-在宅連携、多職種連携の推進



②全県型医療

遠隔診断等の地域を超えた全県型医療の実施
(医療資源の偏在を補完)



③人材育成

医療専門職・関連職の育成
(オンライン研修等)



④疫学分析

県民の健康維持・予防のための疫学分析



⑤健康情報提供

健康情報のフィードバックによる
県民の主体的な健康づくりの推進



全県型の医療介護情報連携ネットワーク「**びわ湖あさがおネット**」の更なる普及展開&高機能化

(運営主体：NPO法人滋賀県医療情報連携ネットワーク協議会)

6. めざすべき姿と、3年間で取り組む事項



【労働】 多様な働き方の実現

2030
年の滋賀

テレワークやサテライトオフィスの普及により、場所や時間の制約を受けにくい働き方が広がり、個人の生活スタイルや状態に合わせて働くことが容易になるなど、多様な人が個性を生かして活躍している

2024
年度末
までの
取組

- **【魅力的な労働環境の創出】** テレワークやサテライトオフィスでの勤務など、場所や時間を有効にとらわれない多様な働き方が定着し、労働生産性の向上や雇用の創出、災害等の発生時におけるリスク分散に寄与する。

県の主な
取組

- 県内事業者におけるテレワークの導入および拡充支援
- 行政手続のオンライン化を進めていくことにより、場所や時間の節約が不要になる環境づくり

6. めざすべき姿と、3年間で取り組む事項



【歴史・文化・スポーツ】誰もが居場所や生きがいを持ち、学び親しめる

2030
年の滋賀

デジタル技術を活用することで、これまで体験できなかった文化芸術活動、スポーツ活動などに取り組めるようになり、またオンラインやスマートフォンアプリ等の活用を通して身近に文化・スポーツ活動等に触れる機会が増え、活動を通じた新たなつながりが生まれている

貴重な文化財等をデジタル技術の活用により身近に感じられ、次世代に継承できている

2024
年度末
までの
取組

- 【学習・スポーツにおけるオンライン活用】身近な ICT機器などを活用することで文化・スポーツ活動等に触れる機会が増え、活動の裾野拡大や健康で心豊かに暮らせる社会づくりに寄与する。
- 【教育文化施設のデジタルシフト】歴史的資産や貴重な資料の保存・活用、デジタルとリアルを融合した取組を展開することで、次世代への継承や文化・社会教育活動等に取り組む交流活動を拡げていく。

県の主な
取組

- デジタル技術を活用した「幻の安土城」復元プロジェクトの取組
- パソコンやスマートフォンから、施設利用やスポーツ教室の予約等が可能となる運営管理システムの検討
- 社会教育施設などの Webサイトや外部関連サイトの魅力が直感的にわかるような広報を展開するとともに、どこからでも利活用できるオンラインのギャラリーや講演会等の開催、コンテンツの制作、実物展示や実体験の取組を融合させた取組などを推進
- 収蔵品や資料のデジタルアーカイブ化による鑑賞方法等の充実

6. めざすべき姿と、3年間で取り組む事項



【教育】たくましく、しなやかに生きる力を高めている



2030
年の滋賀

対面での学びのよさを生かしつつ、デジタル技術と学習履歴等の教育データの利活用により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が充実し、すべての子どもたちが、一人ひとりに応じた学びを深めている。

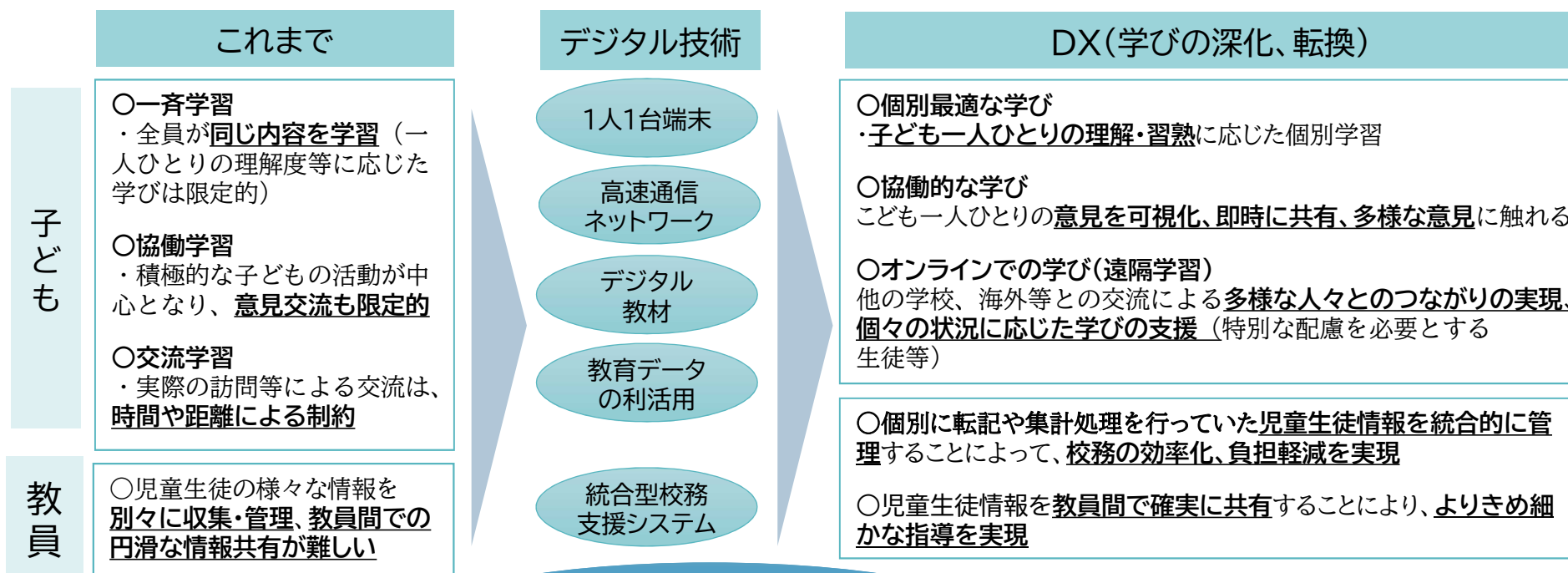
2024
年度末
までの
取組


- ・【**子どもの学びのデジタルシフト**】1人1台の端末環境のもと、教材等のデジタル化や教育データの利活用により、子どもたちは主体的に学習を行い、教員は一人ひとりに応じた指導を行うなど、「個別最適な学び」を進める。また、子ども一人ひとりの意見を可視化、即時に共有し、多様な意見にふれることで「協働的な学び」を深める。さらに、オンラインを使った遠隔教育により、多様な人々とのつながりの実現、文化・スポーツを含む学校の教育活動の活性化とともに、個々の子どもの状況に応じた学びの支援につなげる。
- ・【**生涯学習におけるオンライン活用**】デジタル技術を活用し、オンライン・オンデマンド方式での学びの機会と対面での学びを組み合わせ、県民がいつでもどこでも主体的に学ぶことのできる環境を提供するとともに、その学びの成果を生かして活躍できる環境を整備する。

県の主な
取組

- ・1人1台端末等のICT機器を有効活用し、教材等のデジタル化や教育データの利活用により一人ひとりの学びを最適化していくプロジェクトの推進の検討
- ・生徒の学習履歴や教員の教材の蓄積、生徒の協働的な学びにつながる学習支援ソフトの県立学校への導入検討
- ・「いつでも・どこでも・主体的な学び」を推進するため、スマートフォンやタブレット等にも対応した、オンライン・オンデマンド方式やSNSを活用した学びの機会の拡充の検討
- ・スマートフォン・タブレット等からも図書館の持つ情報へのアクセス・検索・閲覧を可能にし、県民が図書館の資料や情報を利活用しやすくする環境の整備の検討

たくましく、しなやかに生きる力を高めている



 全ての子どもたちが、一人ひとりに応じた学びを深めている。



1人1台端末を使った子どもたちの理解や習熟に応じた学習



タブレットで互いの意見を共有



病室と教室を結んだ遠隔授業



多くの中学校をオンラインでつないで中学生が意見交流(「しが生徒会オンライン生徒会」)

6. めざすべき姿と、3年間で取り組む事項



【社会インフラ】生活や産業活動を支える



2030
年の滋賀

情報技術の利活用、新技術の社会実装を通じた社会資本整備分野のデジタル化・スマート化により、安全・安心で利便性の高い豊かな生活が実現している

2024
年度末
までの
取組

- ・ **【地域交通の利便性向上と最適化】** 滋賀県内各市町を走行しているコミュニティバスの運行情報(停留所、時刻表、運賃等)をスマートフォン等での各径路検索サービスにおいて利用できるようにすることで、バスの利便性向上と利用促進につなげる。
- ・ **【社会インフラのデジタルマネジメント】** 道路台帳の電子化やインフラ点検における新技術導入、アセットマネジメントシステムの構築などにより、効率的で効果的なインフラの維持管理を図る。

県の主な
取組

- ・ バスダイヤ等のオープンデータ化による公共交通の利便性向上に向けた取組やMaaSの普及に向けた取組の推進
- ・ インフラ点検への新技術導入による業務効率化・高度化
- ・ 道路台帳の電子化により官民確定協議や占用料聴収などの業務効率化、特殊車両の通行許可手続のオンライン化の検討
- ・ 砂防関係の情報・資料を一元化するとともに、位置情報を活用して施設整備・施設点検・避難計画の効率的、効果的な運用ができるアセットマネジメントシステムの構築の検討
- ・ BIMの活用による設計・施工・建築物のメンテナンスの効率化、建築基準法関連手続の電子化の検討

6. めざすべき姿と、3年間で取り組む事項



【防災・防犯】地域とつながり、安全・安心な生活



2030
年の滋賀

防災、防犯および交通の分野でデジタル技術とデータを利活用し、安全・安心で便利な毎日を過ごしている

2024
年度末
までの
取組

- ・ **【防災・減災へのデジタル技術の積極的活用】** 激甚化・頻発化する自然災害に備え、高度な防災気象情報等のデジタルデータの活用や最適な情報を提供できるシステムを構築することで、事前防災の促進や災害時の迅速な避難を支援する等、安全・安心が向上する社会の実現に寄与する。
 - ・ **【アプリ・SNS等を活用した安全・安心情報の把握と提供】** 刻一刻と変わる災害情報をデジタル技術の活用により効率的に収集し、AIなどの電子ツールを活用して被災者支援情報等を速やかに提供するなど、迅速な災害対応と被災者生活の再建に寄与する。
 - ・ **【データ・デジタル技術を駆使した防犯】** あらゆる世代がスマートフォンを通じて「誰でもどこでも」ニーズに合わせた防犯・交通安全情報を入手できることで、子ども、高齢者、女性、職域等、地域住民一人ひとりがそれぞれ安全に生活できる社会の実現に貢献する。
 - ・ **【データ・デジタル技術を駆使した交通安全】** 県民参加型の研究により車の運転状況から得られる様々なデータを多角的に分析し、交通安全教育への活用や道路環境の研究等に還元することで安全な交通インフラの整備に寄与する。
- ・ 降雨予測データを利用したダム流入予測システムを構築
 - ・ 犯罪発生マップによる視覚的で分かりやすい犯罪情報の提供の検討
 - ・ 効率的な被害情報収集や、被災者支援情報を提供できるようAIチャットボットを活用した仕組みの導入の検討
 - ・ SNSを活用した青少年の非行防止・被害防止の効果的な啓発の検討
 - ・ ビッグデータの収集・分析による効果的な高齢者向け交通安全教室の開催や将来的な道路構造設計等への反映検討
 - ・ タブレット化による認知機能検査時間の短縮や運転免許申請等の自動受付機導入による利便性の向上の検討

県の主な
取組

地域とつながり、安全・安心な生活

県民への安全安心のための情報提供

- ◎マンパワーによる安全教室で各種情報をお届け
- ◎テレビ、ラジオ等による情報発信
- ◎HP上で事件事故発生状況等を表示

- ・特殊詐欺って何だか他人事…
- ・交通事故に気を付けてるってだけ言われても…
- ・前にも老人会で同じチラシをもらったし、心に響かない…



◆リアルタイムに分かりやすく

◆届けたい対象へ的確に

◆直接、視覚に訴える情報提供へ

- ・特殊詐欺アホ電発生状況を視覚的にHPに表示
- ・啓発素材のデジタル化で、内容をリアルタイムに
- ・車の運転状況データ蓄積による客観的な分析で根拠に基づいた確かな交通安全指導に
- ・YouTube広告の利用でターゲットを絞った中身の濃い情報発信



6. めざすべき姿と、3年間で取り組む事項



【観光・地域活性化】多様な人がつながり、活躍できる



2030
年の滋賀

県の観光や物産、イベントなどの魅力ある資源や取組がデジタル技術を活用して届けたい人に届き、関係人口の創出等が生まれ、地域における新たなつながりや、地域コミュニティの維持・活性化が実現している。

2024
年度末
までの
取組

県の主な
取組

- ・ **【オンラインによる交流・関係人口の拡充】** 地域課題に対する人材マッチング、地域内外の人や取組のネットワーク化や行動分析、関係人口の創出等を可能とするデジタル技術を活用した情報プラットフォームを形成し、地域の活性化に各主体が取り組める環境づくりを推進する。
 - ・ **【ワーケーションの推進】** 滋賀県らしい体験や地域活動等を組み込んだワーケーションを推進することで、県内外の企業や従業員等の多様な働き方を促進し、生産性の向上やイノベーションの創出等につなげる。
-
- ・ 人材のマッチングやプロジェクト情報の相互活用等が可能なデジタルプラットフォーム導入等による関係人口の拡大、移住・定住の促進、地域の活性化の取組の検討
 - ・ 観光周遊の促進に向けた観光客の動態データ等の分析および活用
 - ・ 「ビワイチサイクリングナビ」アプリの活用推進
 - ・ ワーケーションの推進

多様な人がつながり、活躍できる

「関係人口の創出をベースとした本県への移住促進」のためのデジタルプラットフォームの導入・活用

“選ばれる滋賀”実現のためのエンジン

